



# 健康の豆知識

けんこうのまめちしき

「医学情報Vol. 6」No.26(発行日:平成19年5月1日)【発行:相模原協同病院 企画・編集:教育・広報委員会】

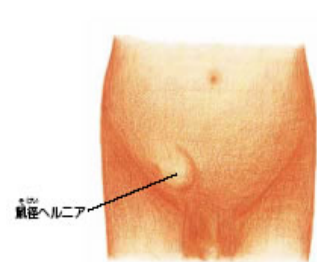
## 成人「鼠径ヘルニア」について

ヘルニアとは、ある臓器が体の弱い部分から他の場所へ出てくる病気です。今回は、腹部のヘルニアの中で最も一般的な鼠径部（足の付け根）におこる「鼠径ヘルニア」についてのお話をします。

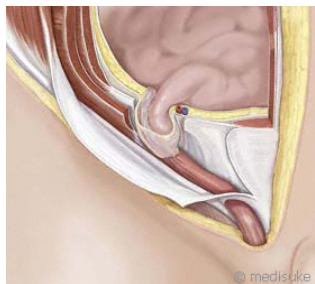
### ◆症状と原因

鼠径部（足の付け根）の「膨らみ」が主な症状です。（図1）この「膨らみ」は長い時間立っていた時や、お腹に力を入れた時に大きくなります。横になって安静にし、押し込むと消えることがあります。また、疼痛や便秘症状などを伴うこともあります。

原因は、子供のヘルニアは生まれつきのものがほとんどですが、成人のヘルニアは加齢に伴い鼠径部の組織（筋肉・腱など）が弱くなり開いた「穴」を通して、「腹膜」と「おなかの中の組織（腸・大網・卵巣など）」が皮膚の下まで出てくることでおこります。（図2）



(図1)



(図2)

### ◆なぜ手術が必要か

ヘルニアの原因は組織の弱りなので、これを薬で治すことはできません。筋力トレーニングなどをして開いた「穴」はふさがりません。また、ヘルニアの合併症の一つに「嵌頓（カントン）」（「膨らみ」が戻らなくなり疼痛などをおこすこと）があります。（図3）「嵌頓」を起こした場合、膨らみの中の腸などが壊死してしまふことがあります。この場合は緊急手術をしなければなりません。そのため、鼠径ヘルニアに対しては待機的に（しっかりと準備をして）予定手術をすることを勧めています。



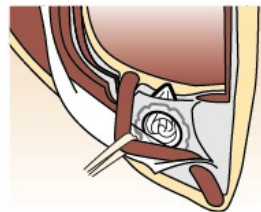
(図3)

### ◆手術の方法

鼠径部を斜めに5cm前後切開します。従来は弱くなって開いた「穴」を糸で縛ってふさぐ方法を行っていました。しかし、手術後の痛みが強い事や再発率が高いこともあり、現在は体内に害の少ない人工物を使

って「穴」をふさぐ手術が一般的となっています。当院では「プラグ・メッシュ法」という方法を採用しており、ポリプロピレンでできたプラグを「穴」に差し込み、さらにその上からメッシュシートを貼り付け補強する手術を行っています。（図4）しかし、ポリプロピレンの長期使用データが40年程なので、30歳以下の若い方には原則として従来の方で行っています。

当院では現在のところ腹腔鏡を用いた鼠径ヘルニア手術は行っておりません。



(図4)

### ◆入院期間

当院では2泊3日の入院で行っています。手術の前日に入院していただき、手術の翌日退院となります。1～2週間以内に外来受診していただき抜糸を行っています。

### ◆手術後

基本的に生活の制限はありませんが、最低でも術後2週間は重いもの持つなど、腹圧をかける行為は避けるようにしていただいています。

### ◆外科に受診を

鼠径部という事でなかなか受診するのをためらう方もいますが、鼠径ヘルニアは特に珍しい病気ではなく当院でも年間150人程度の方が手術を受けられています。「膨らみ」がはっきりしない場合でも鼠径部の異和感や痛みを感じている方は一度受診してみてください。

●今回のお話を書きましたのは当院の・・・

- ◆診療科名 外科
- ◆役職・氏名 小池卓也（こいけたくや）
- ◆専門分野 一般外科 消化器外科